

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 大槌町社会福祉協議会	代表者	徳田 信也
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 ハイス こづち	管理者	三浦 正展

法人・事業所の特徴	大槌町社会福祉協議会(大槌町社協)は「この地域に住み続けたい」というみんなの願いの実現を目指し、行政機関、福祉団体等と連携し、地域住民の福祉の向上を図るために活動している民間の福祉団体です。小規模多機能型居宅介護事業所は、通いサービスと訪問サービス、宿泊サービスをひとつの施設で提供できる事業所です。
-----------	--

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	1人	0人	1人	0人	人	1人	2人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 事業所自己評価について、項目内容が難しいものもあるが、利用者の気持ちや、家族の意向とすり合せ、どのような支援が必要なのかを全職員で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の状態や支援方法は、日々のミーティングで共有し、支援につなげている。 定期カンファレンスではケアマネジャーを中心に、職員の意見交換やご家族の希望をまとめ、支援に活かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所自己評価により、改善計画通り実施できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所自己評価において、自己評価を行うときには、できていない項目に重点をおき、職員間で理解にばらつきが起らないように、情報共有を行う。ハイスの現状を理解する。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 建物周辺の環境には常に気を配り、環境整備に努める。 施設の玄関の施錠は夜間のみとし、外出願望の利用者対応では、見守りや談話、周辺の散歩等を実施することで、利用者のストレス軽減に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏季期間は、定期的にハイス周辺の草刈りや清掃を実施している。 施設の玄関の施錠は、夜間のみとなっている。帰宅願望が強い利用者への対応では、見守りや談話、散歩に同行するなどの対応を実施し、利用者のストレス軽減や怪我の防止に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 建物周辺も環境が整備されている。 地域の方が事業所に入りやすい工夫がされているか、常に玄関等に鍵がかかっているかは、説明だけではわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> 建物周辺の環境には常に気を配り、環境整備に努める。 利用者アンケートにて、『家庭菜園』に取り組みたいとの希望が多くあったため、来年度は家庭菜園を充実させる。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 地域で開催される行事には、感染対策を実施のうえ、可能な限り参加する。引き続き、参加時には施設のPRができるよう心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 寺野地区の環境整備作業(草刈り)に参加した。昨年同様に参加の際には、大槌社協職員とわかりやすいように、ボランティアセンターの服を着用し参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民は、ハイスがどのような事業所なのか理解しているかはわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の状況を把握しながら、感染症対策を講じ、安心して職員やハイス利用者が地域イベントに参加できる方法を考える。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> 広報おおつちがハイスにも配布されているため、地域イベントは感染対策実施のうえ可能な限り参加する。 ドライブレクは引き続き感染対 	<ul style="list-style-type: none"> 『広報おおつち』及び、『うすぎわの風』がハイスにも届くようになり、地域でどのような活動をしているかわかりやすくなったが、新型コロナウイルス感染症の拡 	<ul style="list-style-type: none"> ハイスがどのように地域と関わっているかは説明だけではわからないことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染状況を把握しながら、感染症対策を講じ、安心して職員やハイス利用者が地域イベントに参加できる対策を考える。

	<p>策を行い実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイスに設置した「足湯」について、地域活動で活かせる運営方法を検討し、定期的な運用を目指す。 	<p>大により、地域イベントへの積極的な参加は実現できなかった。</p> <p>(令和4年12月にクラスター発生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「足湯」の活用方法も具体的な運用計画方針も決めることができなかった。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ドライブレクでは、引き続き感染症の感染対策を行い実施する。 ・ハイスを地域住民に知っていただけるような独自の広報紙を発行し、自治会の掲示版等に掲示する。 ・「足湯」について、引き続き運用方法を考えていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議では、委員の方々にハイスの運営状況、地域活動等をわかりやすく説明し、さまざまな意見が出せる活発な会議になるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用状況、事故・ヒヤリハット報告、ハイス内での行事イベントの紹介、避難訓練等について運営推進会議にて報告することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の改善計画に基づいて実施できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も運営推進会議では、委員の方々にハイスの運営状況、地域活動等をわかりやすく説明し、貴重なご意見等がいただける会議になるよう努める。
F. 事業所の 防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源及び、緊急時の避難所を職員研修で把握、理解を深める。 ・消防訓練では、地域住民も参加できる開かれた訓練を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・例年の消防訓練、土砂災害避難訓練を実施しているが、地域資源及び、緊急時の避難場所についての詳しい研修については実施できていない。 ・大槌消防署立会いの消防訓練は実施できたが、今年度もハイス利用者、職員のみ参加する訓練となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイスで行われている訓練は報告で共有できているが、実際の消防、土砂災害の訓練に参加したことはない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・BCP（業務継続計画）策定を進める中で、各種マニュアルを見直しながら事業内研修を実施し、地域資源及び、緊急時の避難所の把握、理解を深める。 ・消防訓練では、地域住民にも訓練に参加してもらえるよう、訓練内容をお知らせするチラシを作成し配布する。